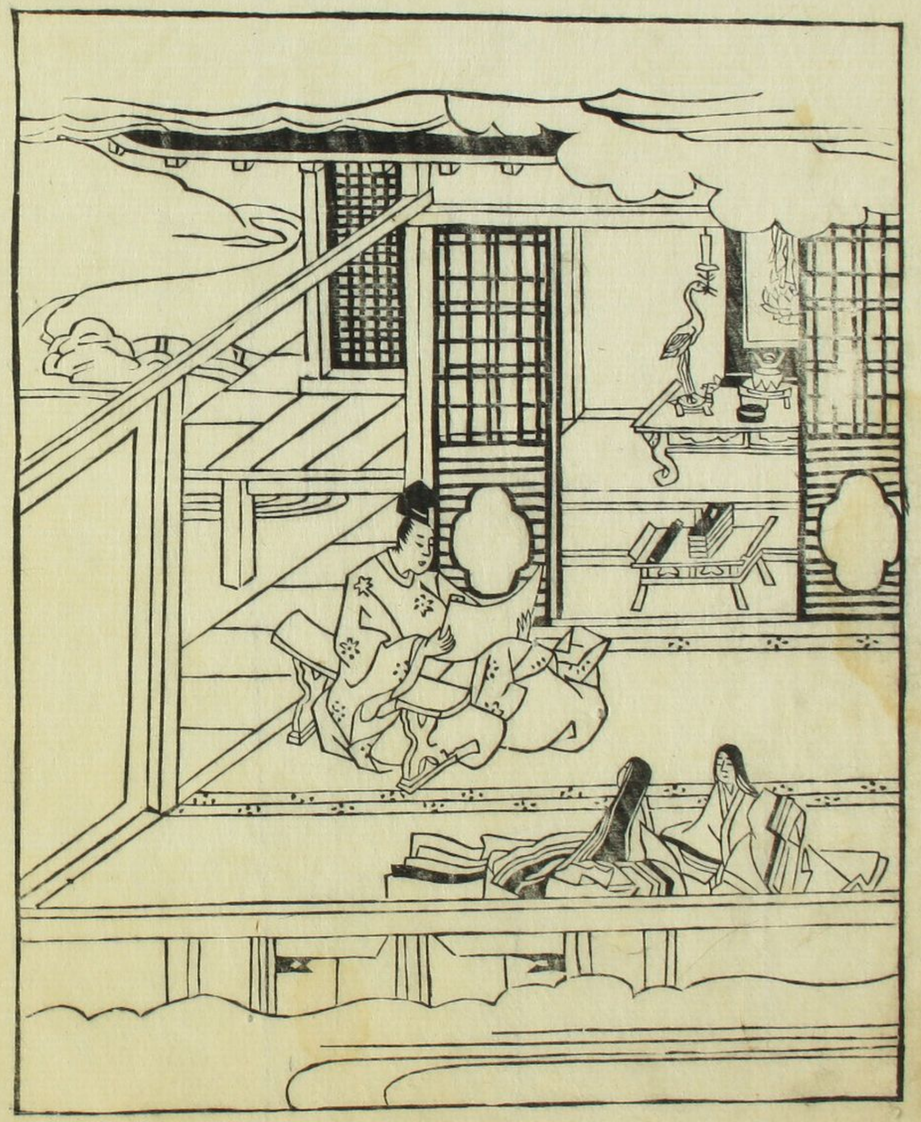
おさなし源氏五　完結十帖

優婆塞乃文八桐壺帝のみとの男八の宮
母八左大臣むすめ　冷泉院　十ノ宮
妻ハ右大臣の御孫　冷泉院
引こもり給乃ち妻ハ曲りくねりて
出八の宮を礼をつくして六条院へ
おくり八の宮ハ出家わく姫と京の
大堰へ引こもり給へ

ものがたり　ゆうすなわち　ひとりまて
八の宮ハ四むすめ　二人　姫君　おとこ
大臣のむすめ　ものがたり　ものがたり
宮ハ世間をすてゝ　おとこ
ものがたり　ゆづる人なくて年月　おとこ
宮の四姫　ものがたり　ものがたり
なりてゆくをたてまつる　父宮
なげき給ひ　姫君　おとこ
ものがたり　ものがたり　ものがたり
してなげきをとゞめてまつり給ふ



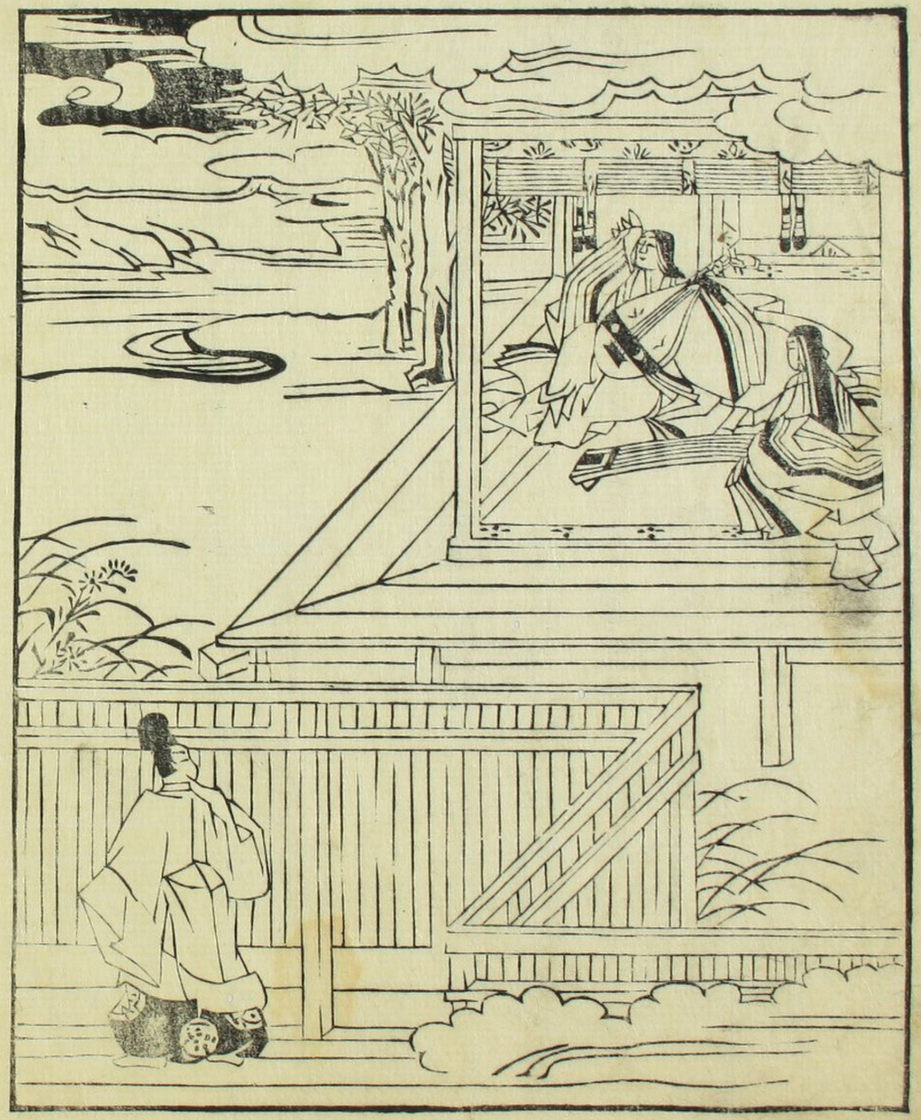
池乃水をなかめつゝ
すさびくらしかたらひ
かりしよの世ものがたりをそ
いとゝかつすさまじけなるを
うきうつゝともなくうちきりふたり
わたるすがのうらにしなるべうけり
姫君いとゝなつかしくなれ
ちかくまゐりなれ
ひとやけうのつ
ゝをけうしいかうを
なみのうらきえのうきをん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

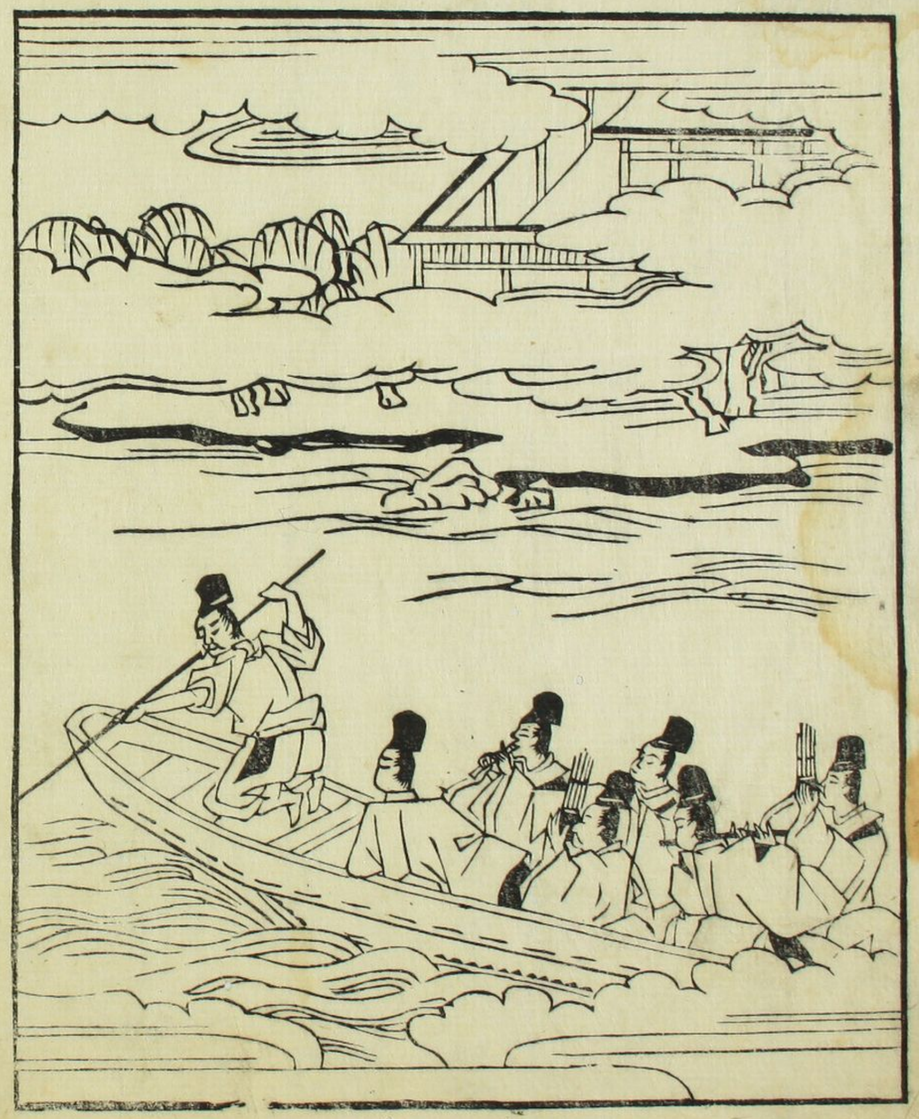


かりのいとのまとよるるおひうちのてあされ
んてていかりのこにうぐねまつるまぐと由ものや
よりもりもりて弁おきかく年ゝうゝ世の中に
まきあきあものかかく絡んごうゝれ
ゝぐしれ程い思のゝまで わきにんてゆく
あくまやといてしに弁いかとあの気と乃
れまあにく芋れ物ゝくゝもやきう明ゝい
やゝたとてぐぐうきゝ海りそれど人
ゆきぐしさのゝりいみくくたら絡一ゝる
初りけいとぐとみくたぐとく
まくのおやまい考ものてぐう

八のよもすがらひあぐるもあるべきなりと
いとゆゑ深き弁なりて如何なるまま
とのうへ人ちかくまゐりあつまりぬべ
くもてなしたてまつりかゝるほどに
ぜんちとたちまちの中にはるかに
あらはれたるとこそ見えけれ
あらはれたるものの中よりはるか
月はるかに山のかなたにあらはれ
ぬるかぜのうちもぜんちのこと
命あるものはたれとも見まゐらせ
いとねんごろに祈りたてまつる

廿三日

きたりてせんぜんにまゐりあつまりぬ
ぬるかぜのうちもぜんちのこと
もてなしたてまつりかゝるほど
もてなしたてまつりかゝるほど
あらはれたるものの中よりはるか
いとゆゑ深き弁なりて如何なる
ぜんちとたちまちの中にはるかに
ぜんちのこと
山のかなたにあらはれたるものの
色どりてこそ見えけれ



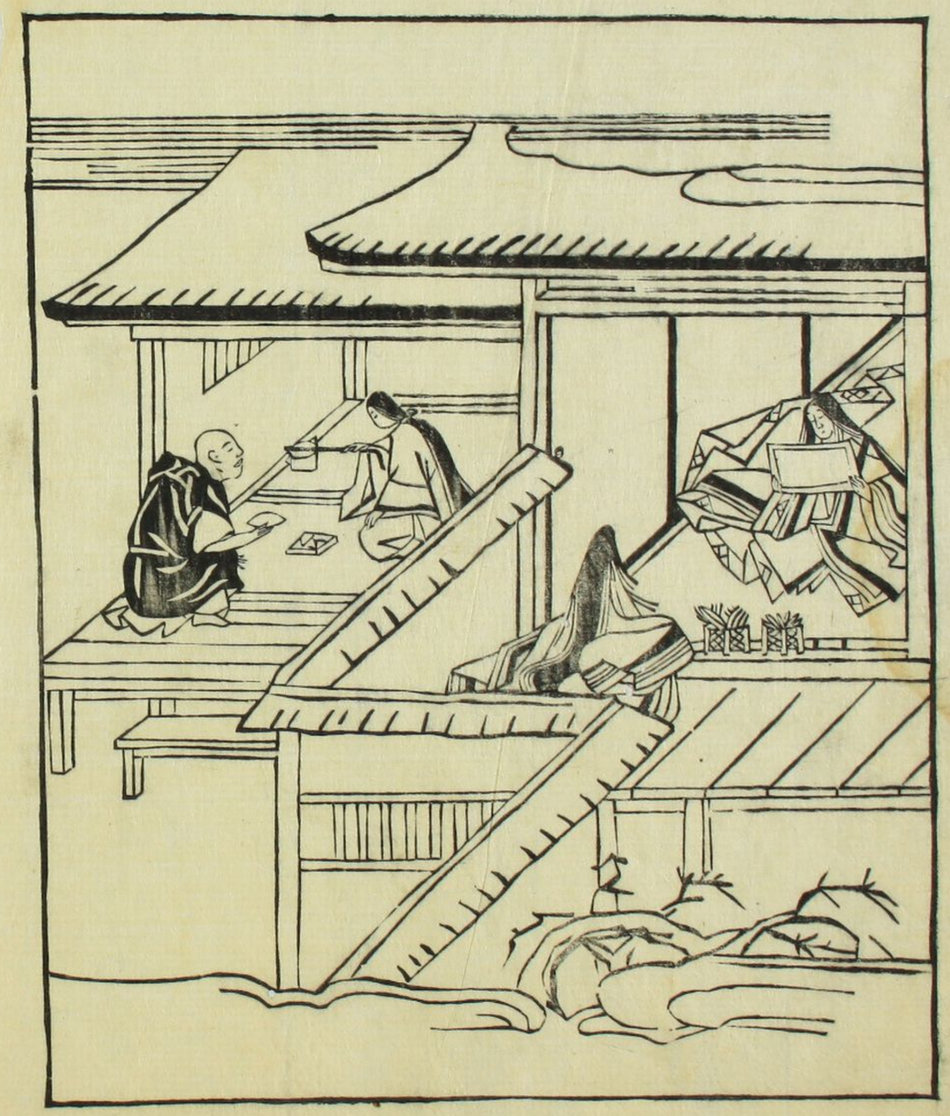
[illegible]
[illegible]
[illegible]

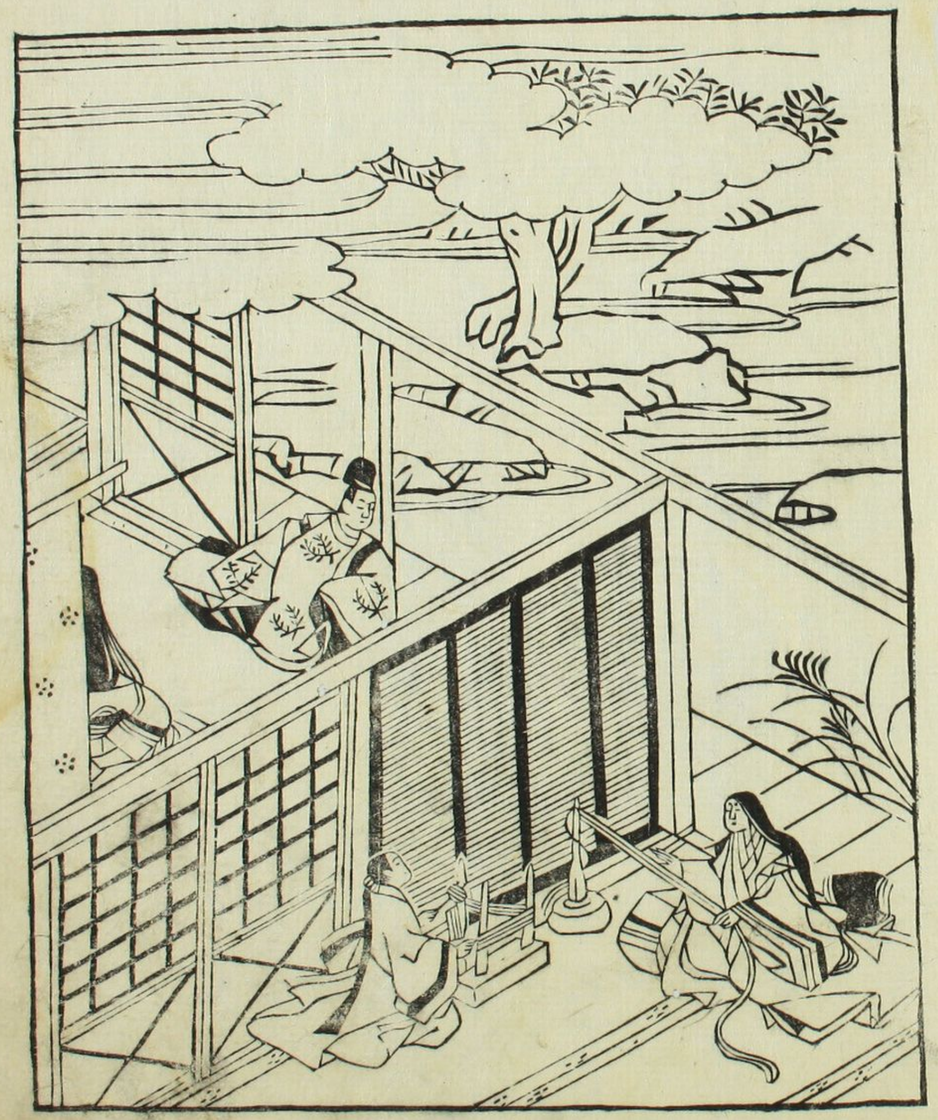
[illegible]

[illegible]

[illegible]

かりかりてみるのりもまいらつるふ
うちひろへも　たち
宮ものけうしあるとき
又ものかりあるふ
ほうこうこうをきくいりを
ちうべしそうまじやわうん
高のかりもうきあけうの鎌ものぐりまり
たちうんかげとたのうしまのぐり
ひまりもとうなりにうれ
年ってひぐうの坂りせわしぐ
たてまつり





宣旨あるとき左くらべ
ありあけのあさぼらけ
素　をものをきくとなりけり
ものをきく　中将いたつねきみより
大夫ハ中夫人　をとこ
きくのやうにたいしんしやと弁ひかく
せめ給へと大夫
中夫人とあんとをいはく
ひきつゝて中将ふかくいはく
中夫人　かうんぐきくとなり　引　大夫ハ

足をあらはしいとあまたはげみて
ものくしてはしらせ給ふ　大夫
ぐ上くハ中夫人同事に思ひ給へ
給ふ　とゝ思ひ給へ　白
ものゝうちにも海さうゝ中夫人
給ふとしすべてさとばかりをみて
なりて大夫中夫人のやうにものゝ
年にたゞしきやうにとる　大夫
つゝて　中夫人　ぬ　給ふ
ものゝいとなもえ思ひ給へ
ものむかへ給ふ　大夫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

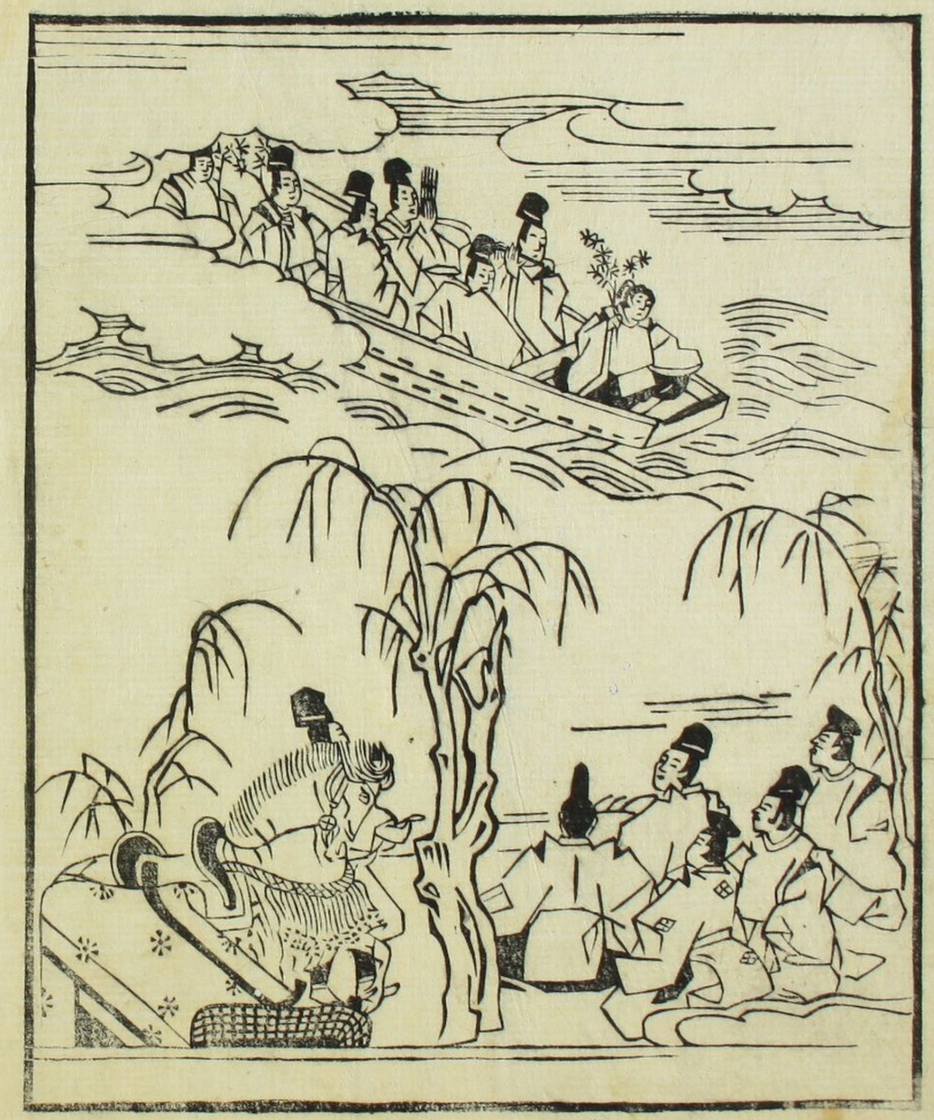
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

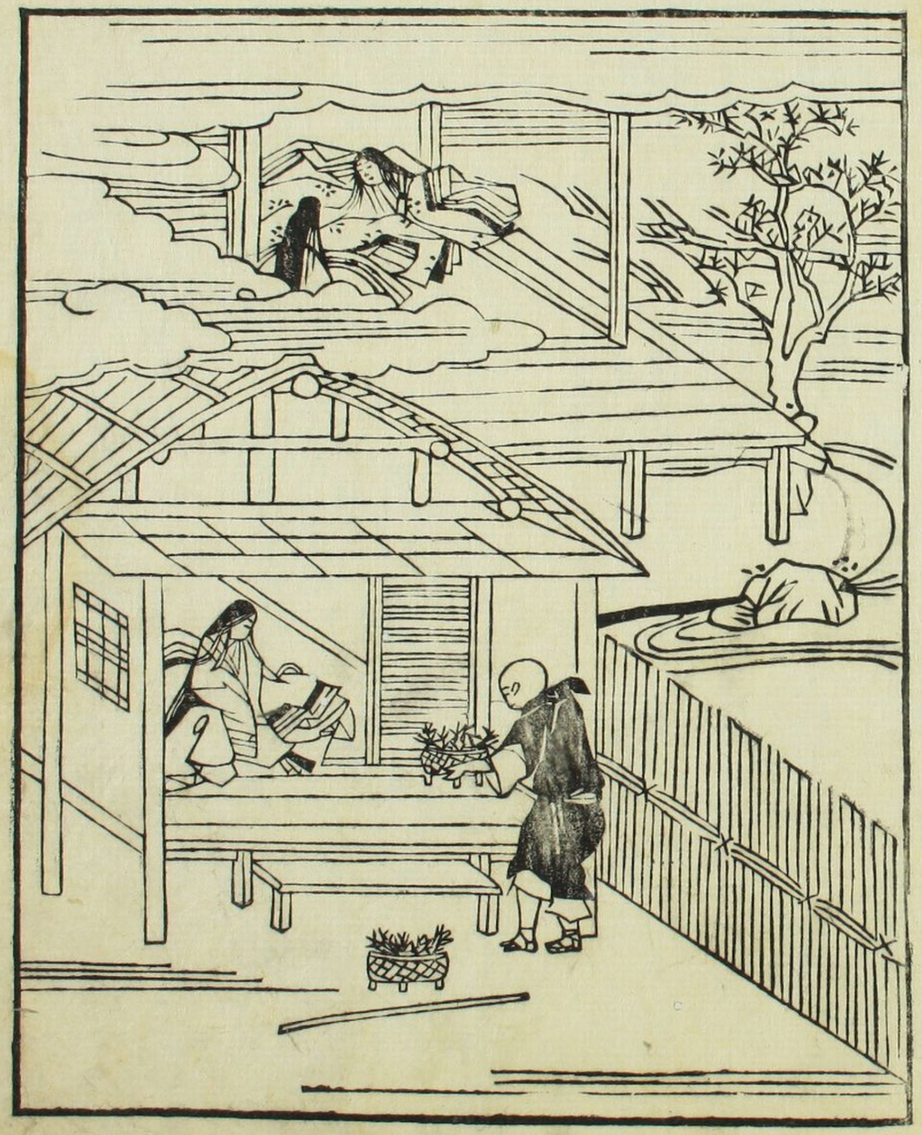
[illegible]

あるふみを書うしなひてなく
ものしりの人乃うしろやきる
かりうかくあるをとりて
そうしとおりのなりしく
かりうりのりはげもとよたるふ
んとうしろめあるうしか
かくて物をうたなのうふみをおりひう
いかりあるれしかいのごとをうそうしうげ
たうりのうしうつ中恵の番とうる
のうまん尺の神とひきの河てひ中恵と
物の番とおげてたうしうあへうきめと

[illegible]

[illegible]

[illegible]



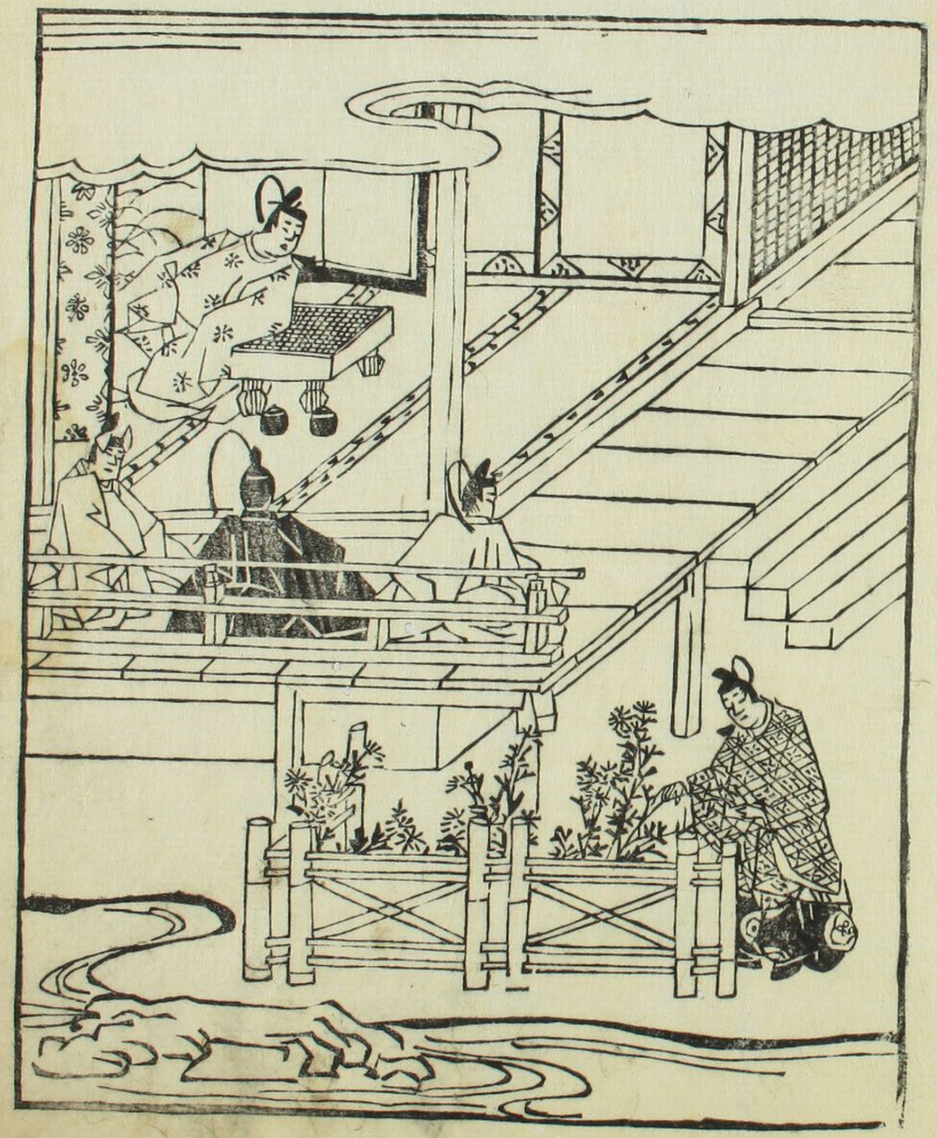
さわらひ
中ゑいまのうらかぜにゆめ
ゑのうちのあぢはれ
たてまつるとき
ゑかてあまさかはまこと
はのかまとみわびなり
はまいたりふるさとんなさ乃
うらんてうらみねのさとに

[illegible]

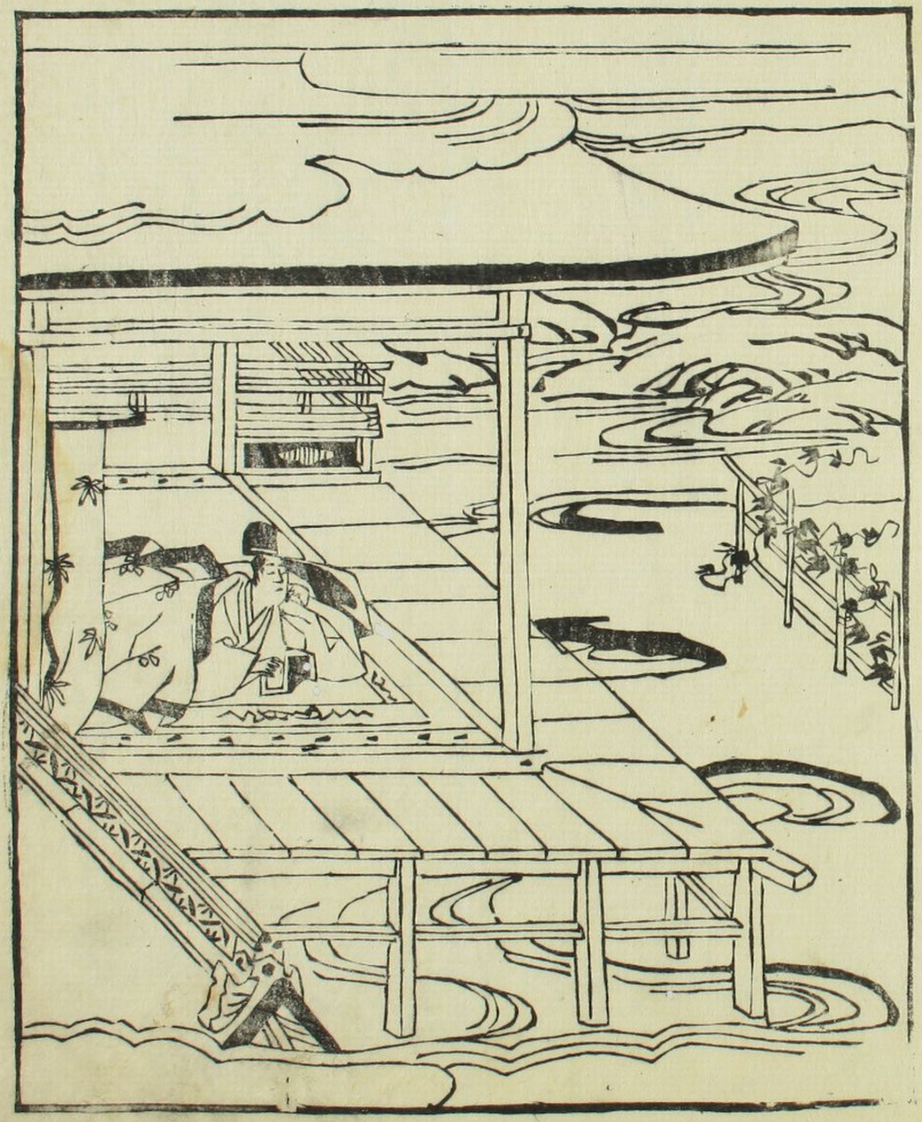
[illegible]

[illegible]

[illegible]



うちもうしくうりる中間をしかりて
かりのそ[illegible]ばけ[illegible]一えぐゆうもうを
如二とまうせんのぢうく　うる
ものひとりねうりうをうるは
んのまうしかりてはまうか
仰　富うしあをかまをそのく面のれど
のうれそえいあせずもあうか
かりうい中そのぢうれ如ものうなうて
ぢうもそのを年をくまあ

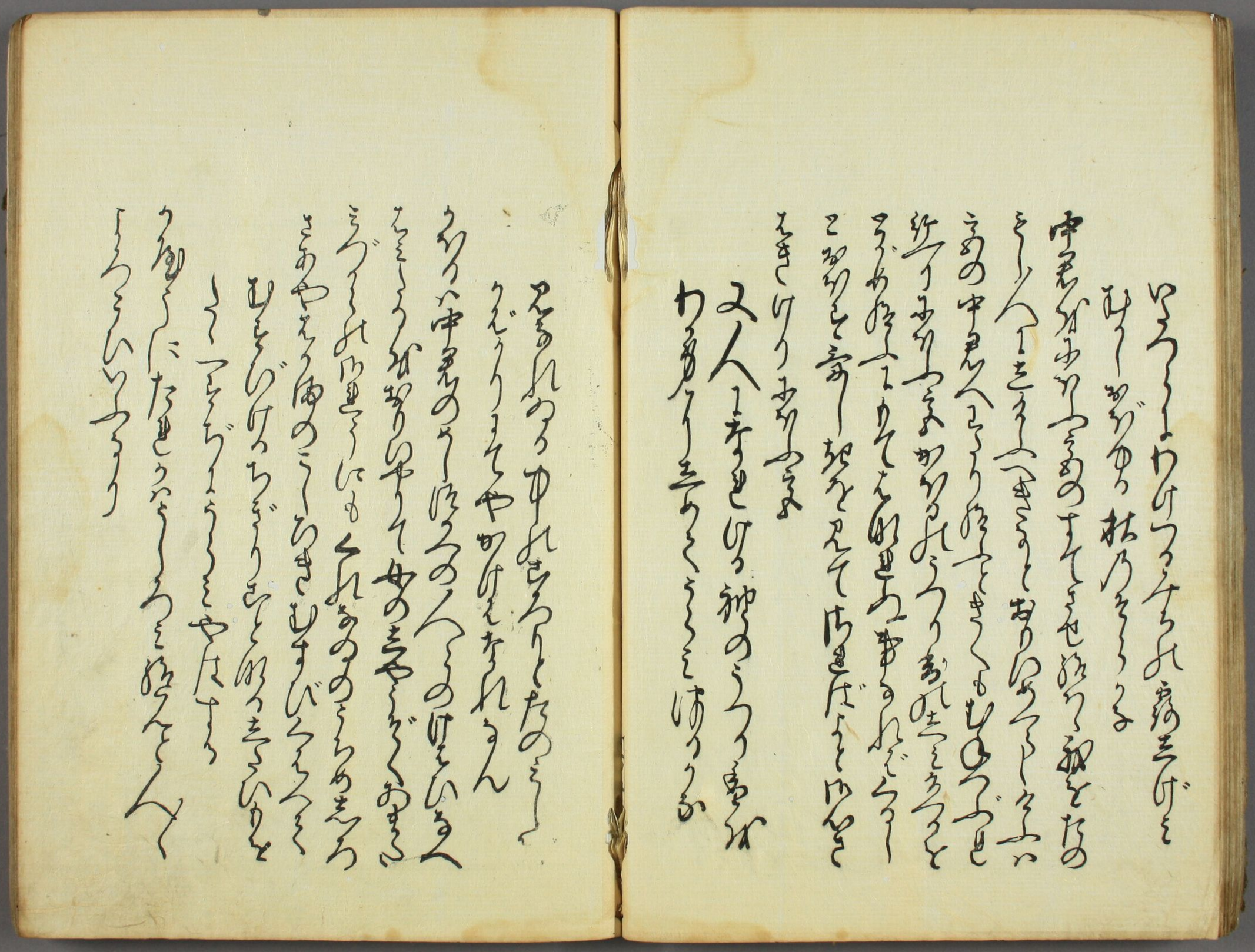


中宮のまへにまゐりたまへるに
ちかうてとりなしたまへるを
ちかうてとりなしたまへるを
中宮
きこえたまへるを
たのもしうおぼしたるを
大きおとゝ
まいりたまへるを
まいりたまへるを
中宮
のたまへる
のたまへる
のたまへる

[illegible]

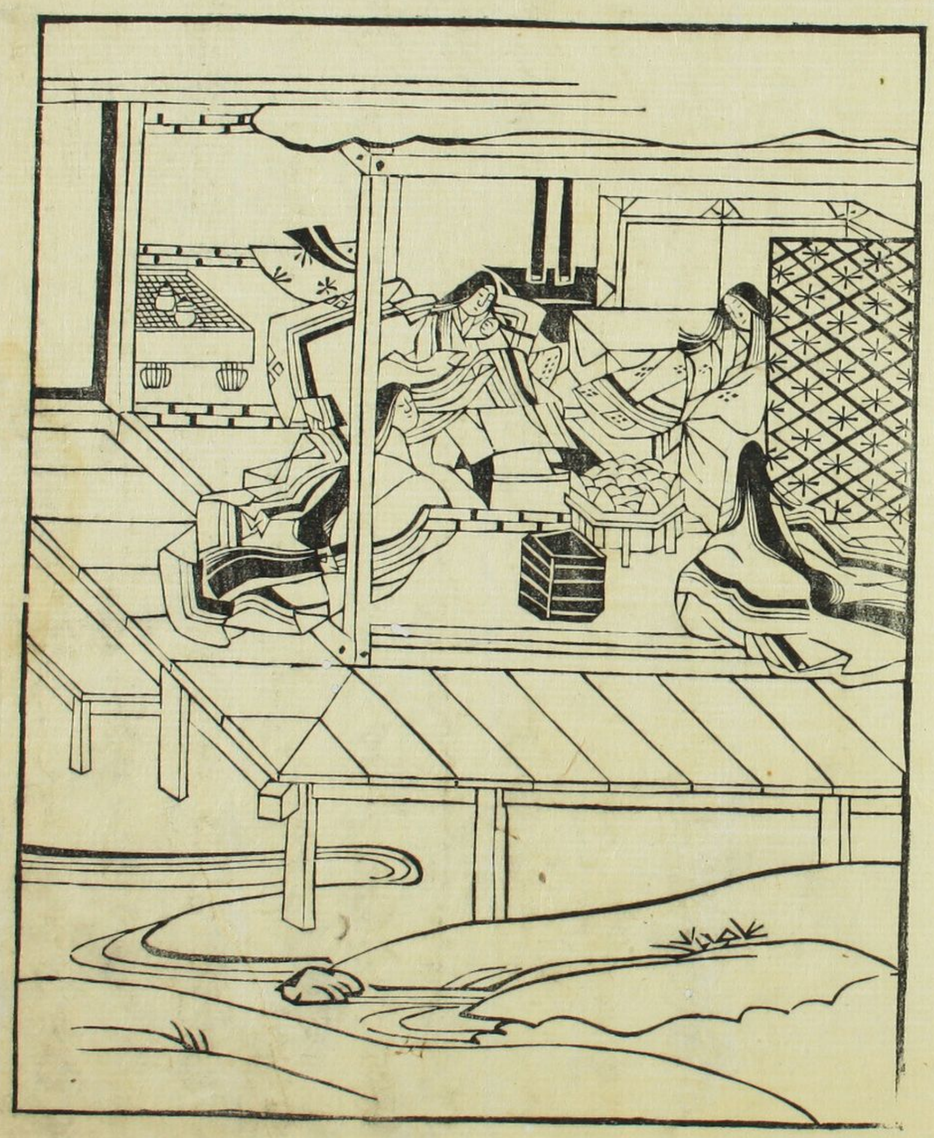
[illegible]

[illegible]



なる中ねびのふうぞやさくきくはなのえだ
もりれんようくれどうるはるもゆらん
ぜんやときこえかりうるうぐいすや
いのつえをせうるの月すれ弁れた
をうして昔ひ人ぐこの事のかうも
おうえんぐそれこ故かくこうせうひしころ
中れの恋ちてしらるれしに八のえこの
びて物のこまひしがかあれうこうしてえい
ぜんうこうてひぐうこうもせるのうう
えのうら中れいぐ四こやれつまふたりて
うれうこうふすみくはこのうり中君

へたつねまううこうくこく中れの恋いれの
うれ四ひこうくれうまもたはこうこ
たこうこうのこうこ風れたのてう
うのまくれんとかうう
風ぐうもれれかどいれれのう
たぐひこのぐはびうまし
弁れのまおまこうくうれのりれやどうもと
れりのこうけるれぐのかうこ
中君のうこいうまれうくく
れりこのあれりうこうこのぐれ
まれくたりの春こびくしく

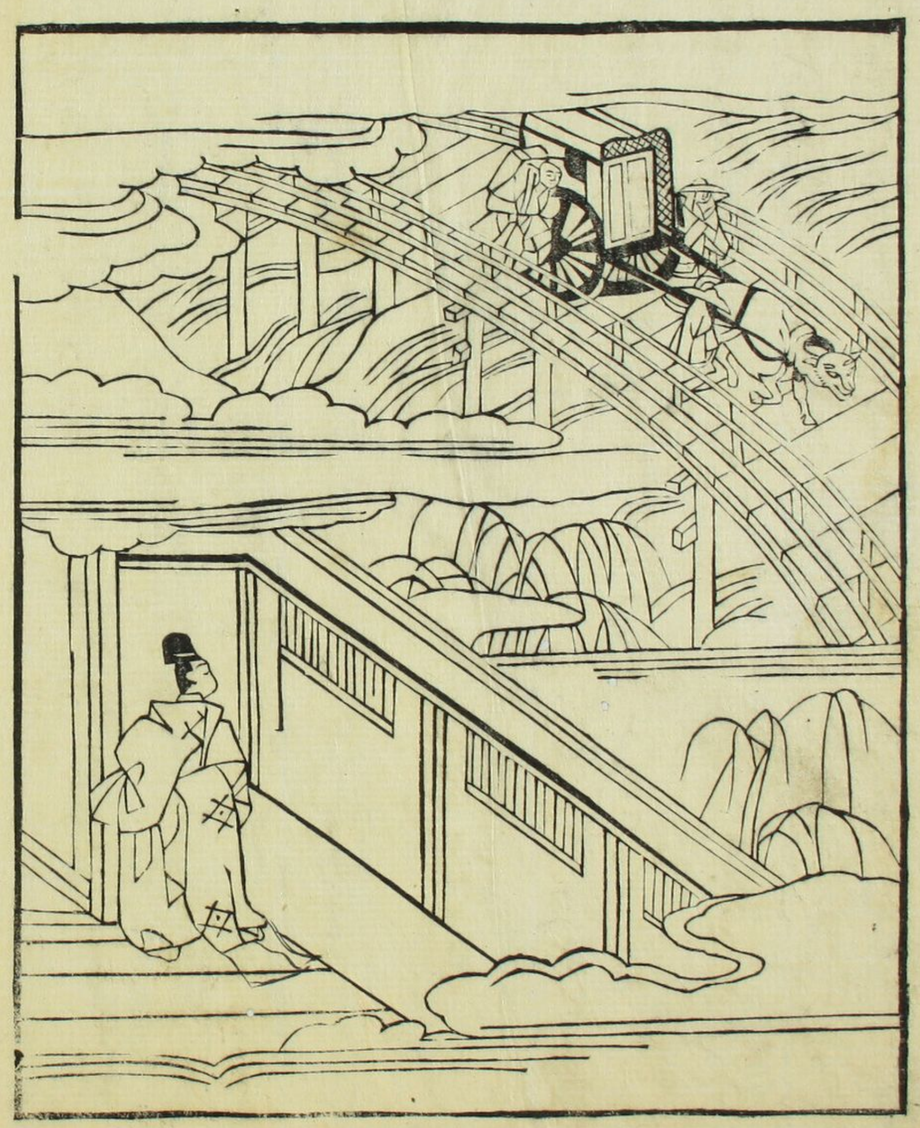


秋さうの野をれ家のよもきの屋
ものかくれはけてこそきも
二月つもれば玄関にたり右大臣の
子をもつさ中まいりてこそ思ふこと
なかりしひごんじ元年を
喜ばしぶわごんつねこそ三十ちご
乃ぢをもつさねもつきこのかまへみを
せんうれ物ものきたりつきにこぬずくま
いるも行ゑ七ちるれ咲ゆ中をより四ちみ日
まは左のうまうきこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



如来たちて世あり
てあるいまつ姫ひとり集
りなりけれとときしにたうとと
きげうなりけるたづの

あるまきうの世あり八の月
ひとりあるのまつもとにて五方人あり
中に姫まつ姫をはしめとして
て世まいりてかりまいりて
なんのあるこうしんわんとうとうハ
月ちうにまつちうきしな

ひとりなんどの申しまして中ごろ
て四ツたびひとりとりの中だちをまこのむ
すあと望のてをやつ
ひとりとりてひとりとりたびと
ひとりとりとりびてけらこびゆこのむしあ
ときまして人したとりあのはくして手せんを
ひとりあるとてひるひとりの事なひとりとい思ひ
なりとりとりとり言ふあるとりあるとりあ乃
とりとりいせしにあやしくた
びひとりたあのとりとりをみとく二人なりき
てひとりの中者人あびけとけりかりる
中者人者ましてきこのうつけよく

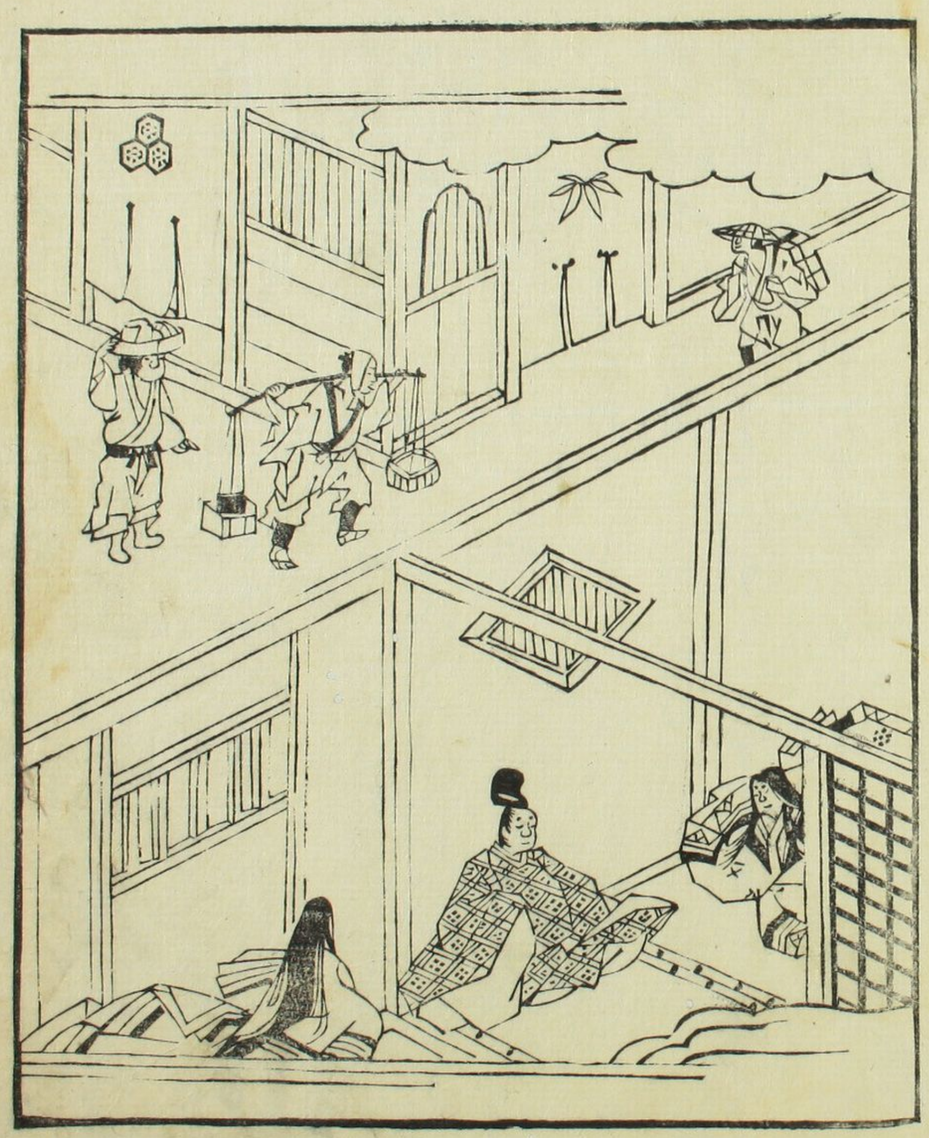
ゑ

ひとりなのかりこ法者ときとく
者ひとりなてあのうせん
姫者よりうて中者者
みとりの川せうにいうんうでこのか
分りとりうびたとうたのもん
幼事をかりこのとりかりてこやき
中者よううりて者ひとりとき者ふれ
ようておとのうとりこ者いかりとあうい
かりとりて和のうとりわうとりなのぞ
きとりて姫者おやうとりとりてあつぎなは
かりてあり

[illegible]はひとりむすめのあるいせんざとうの
ひとりいまざるねんきとしてつとめある
三ゐのゆいしょ小萩どうしゆはのうち
いうろう家のうつくしうきこえて
みやこ[illegible]のゆ萩どうしうまもなく
家をんなかうずもあるまし
三ゐの姫君しうあのうえ
ひとつとしわかうしゆはしのまに
おうなのこうと申ようた
少さうさせていあるの一番ひとりてる
きこうしゆはしうをう

たゆうの秋の比宮殿のはだつうそたうを
きこておうしうかうう

たゆうとの清みつなどうるうきうえの
ありがとうにこうあうそうもん
弁はあまのかうしたうあ清しうはる
てし姫君はまとひうえ(ばこうあいうきて
三ゐの小萩にうてうきに行うとうきたうと
かうあうさあうしうあまき君ふゆうきてこに
つまてきこれとのうまうえ(弁三ゐえいまて
はうしいうれを姫君もあとうきをうてうと
ふうをそうえのはうあるとうきしくあうて

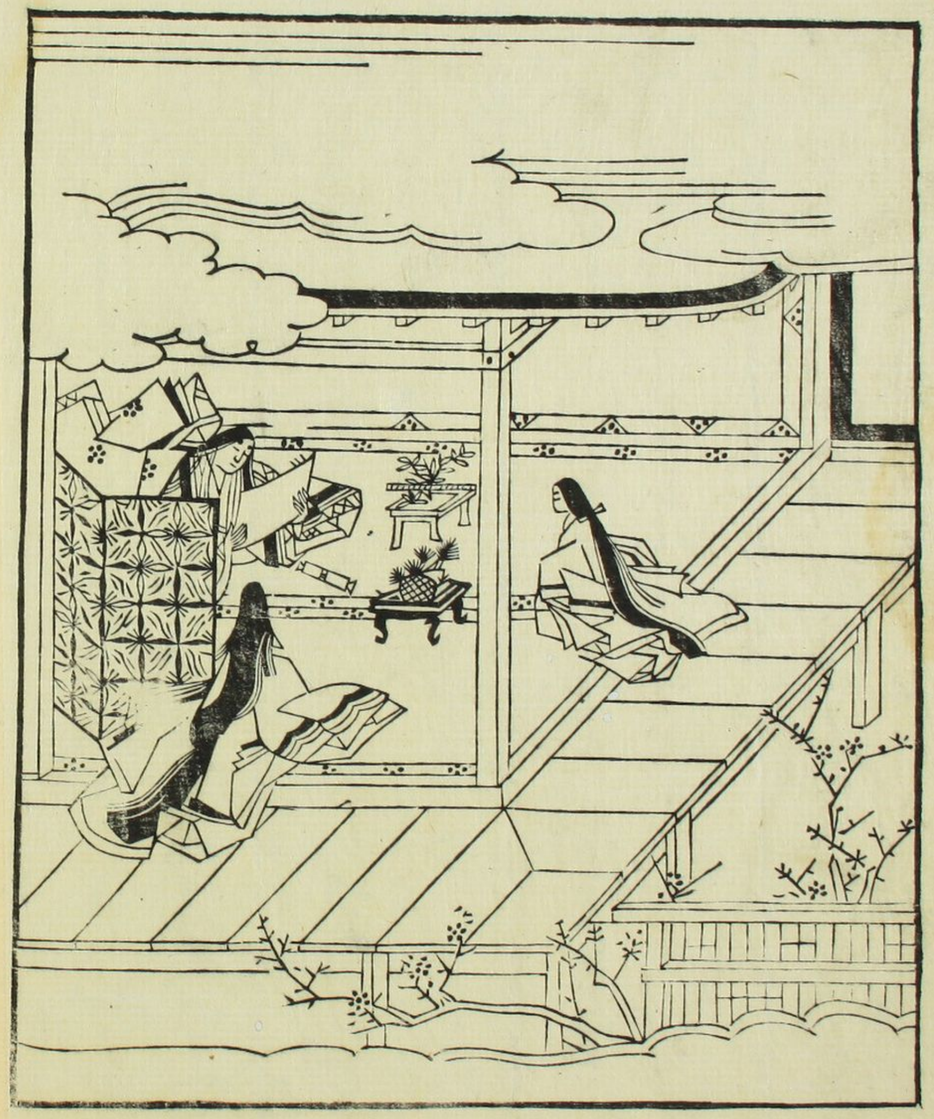


車にて月はまだにもなきいぶせの也
なほあまとなれはいとゝ車にのりて京へ
なりかゝるにつけてもいとあさましき乃
ところにもてきまして独りゐ
無まに思ひなん事をあはれ
なりしかなにてなりあて物思ふ
ものゝ事なりとて弁
なるべうあらんかぎりは
むしてすまうとなり
なりしかるに人乃
物思ひなるの月乃

うき世ねうちの事ども　正月三日

みやこの人はなりしゆへとゝれうす
中書れうまて書せあれのをとゝろみうう
はらていのみてうまるゝ物をまぐと物うい
字治の人乃まちぐなるもいとおしく人
三れと寄しはてすまやせぐやと三条四さ
不しまれうもうもはつらちぐう
白文おいわまれもてあそびうつさちい
されわうとみぐれ物うとうとゝぐを小
物しつゆうたそうとうて書れうまれ実
見給くいうぐうぐ中書れい字治よ

本まぐ物しまれうとうとゝぐ
の物をうて白文おううてうまるうの文い
見うの物をうしまくうまくうの人乃
出ぐなうと字治の人をまぐ物をまるさ
山ぐしたうぐうまるかつうく
まぐうの物をいまで書ぐそ
山ぐうまれうまれと書ぐうん
白文おうまれ物をいまれうの物
うう物をまう物をうの人をかて物う
ちうの人と大内新そうう人書れたよ
ものうかうて



業

[illegible]

業

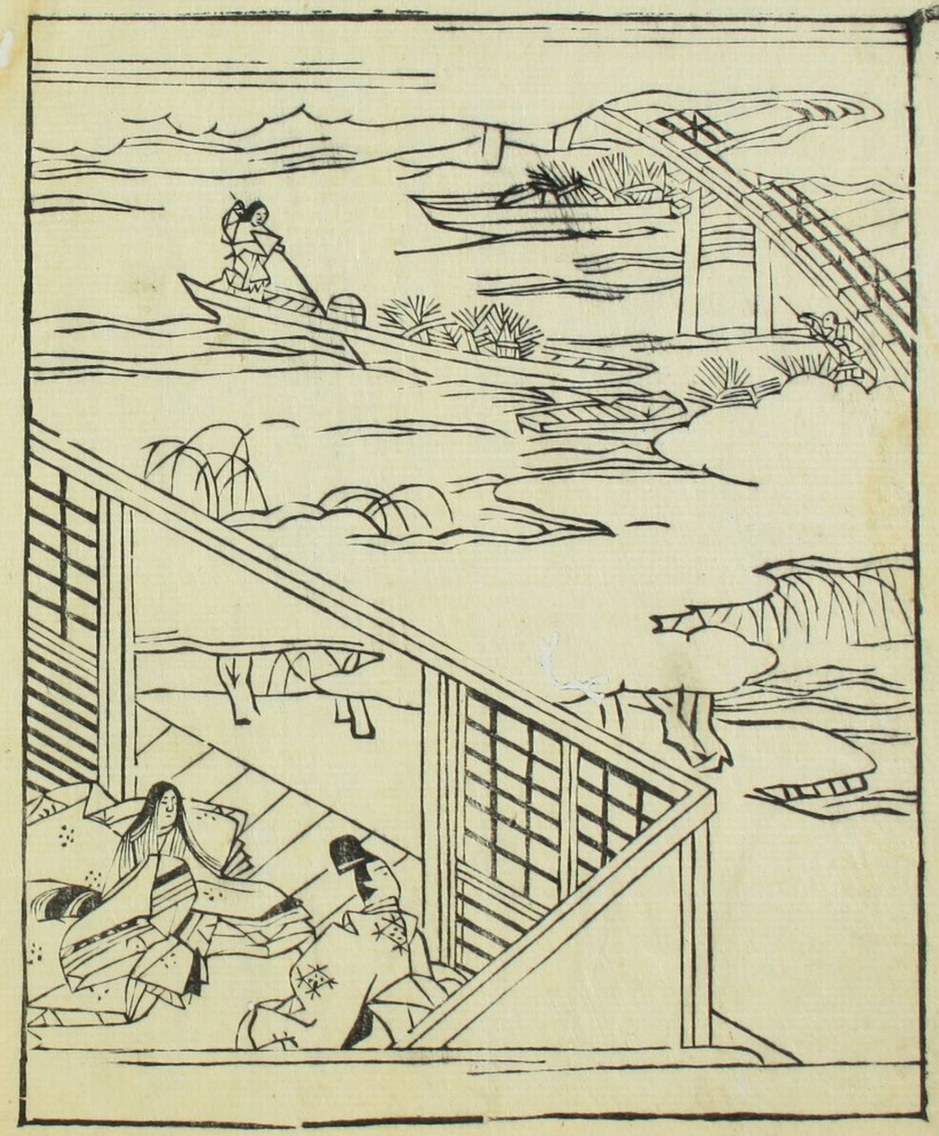
[illegible]

業

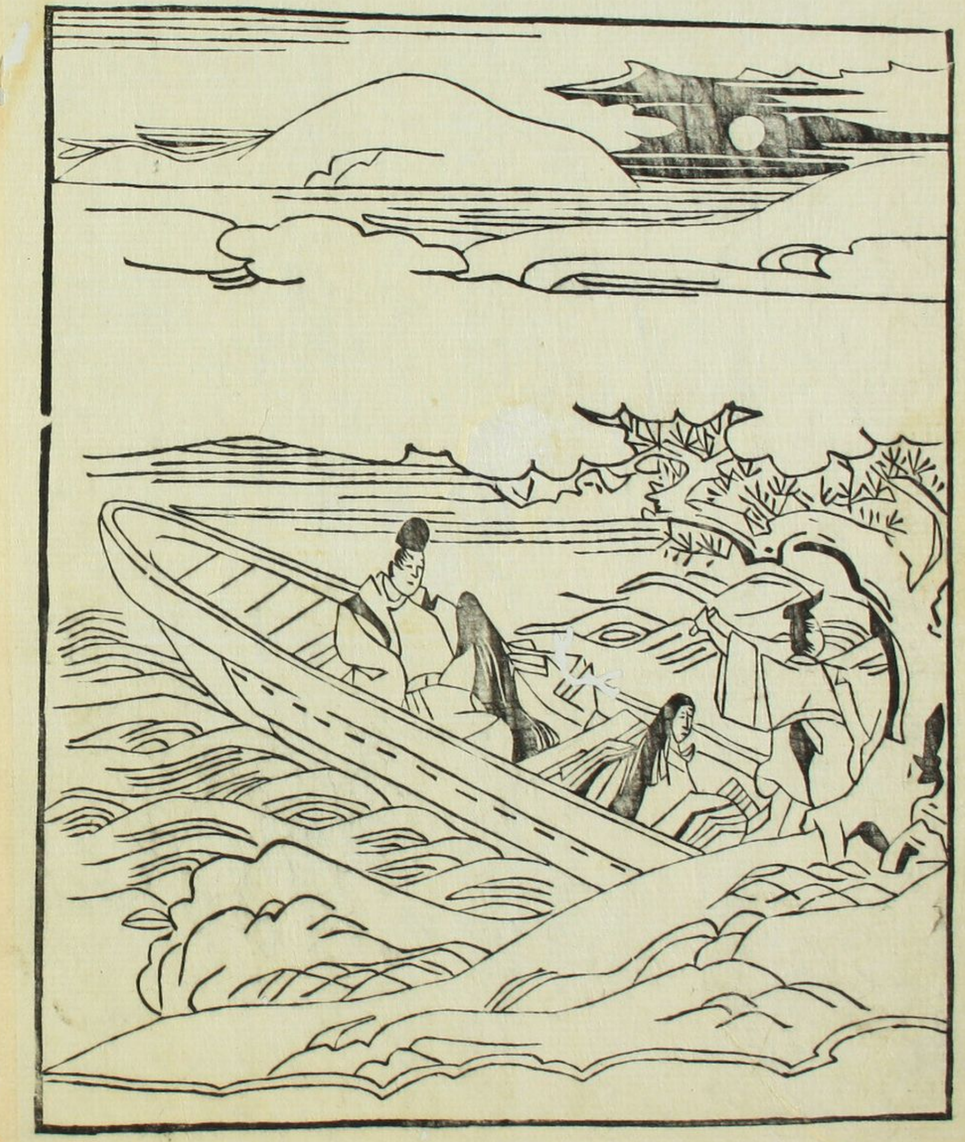
[illegible]

業

[illegible]



二月廿九日ばかりのことなりけるに
ゆくへしらずなりぬとかいなくて
たてまつるこの御ぞたちをんなし
ちゝはゝ人めをはばかりて
あしつまをとりてかくとかいなくて
のぞみけるにこの御ぞ一つはの
五月十五日ばかりのこと
女
たちをれのこゝろのうちはかりがた
ものゝきこゆねどゆくゑもしれず
きゝにきつゝかりの御ぞ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

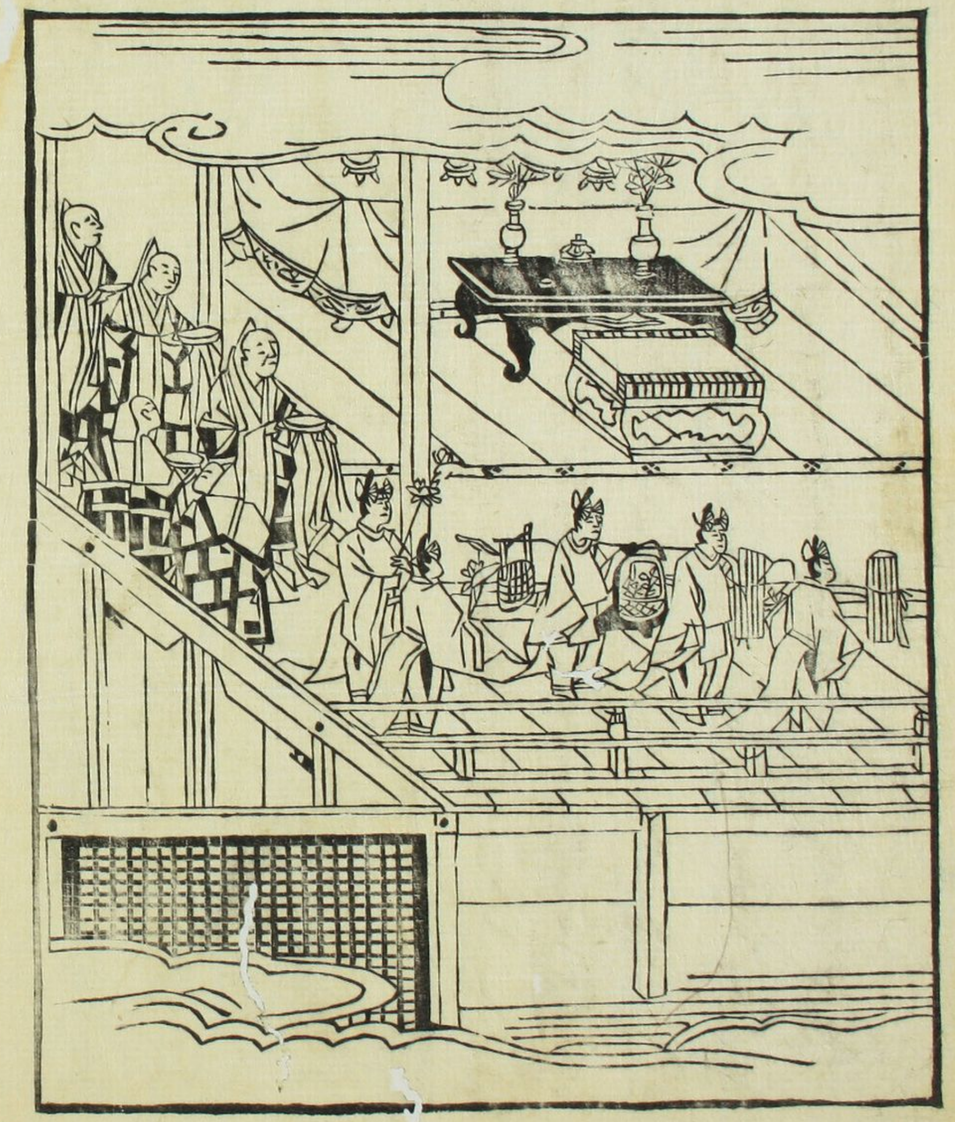
行幸あり給へる
日なりけれども
物まいりもせんとて
いはくみの浦をたちもとをれば
かつらの山をなつかしみ
行幸のあり給へる
しるべをもとめ給へる
なにはづにてもとをれば
こゝろもとまりぬべし
物をもとめ給へる
をしくたゝんとて
物をもとめ給へる

とゝまりのこゝろをしれ
かつらぶきの世にぞ
河をこそ
あまをとめ
のうらにあり
世のわにも
かねのこゑ
わが世はこゝ
かつらの山
宮ばらにあるものをせばし

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

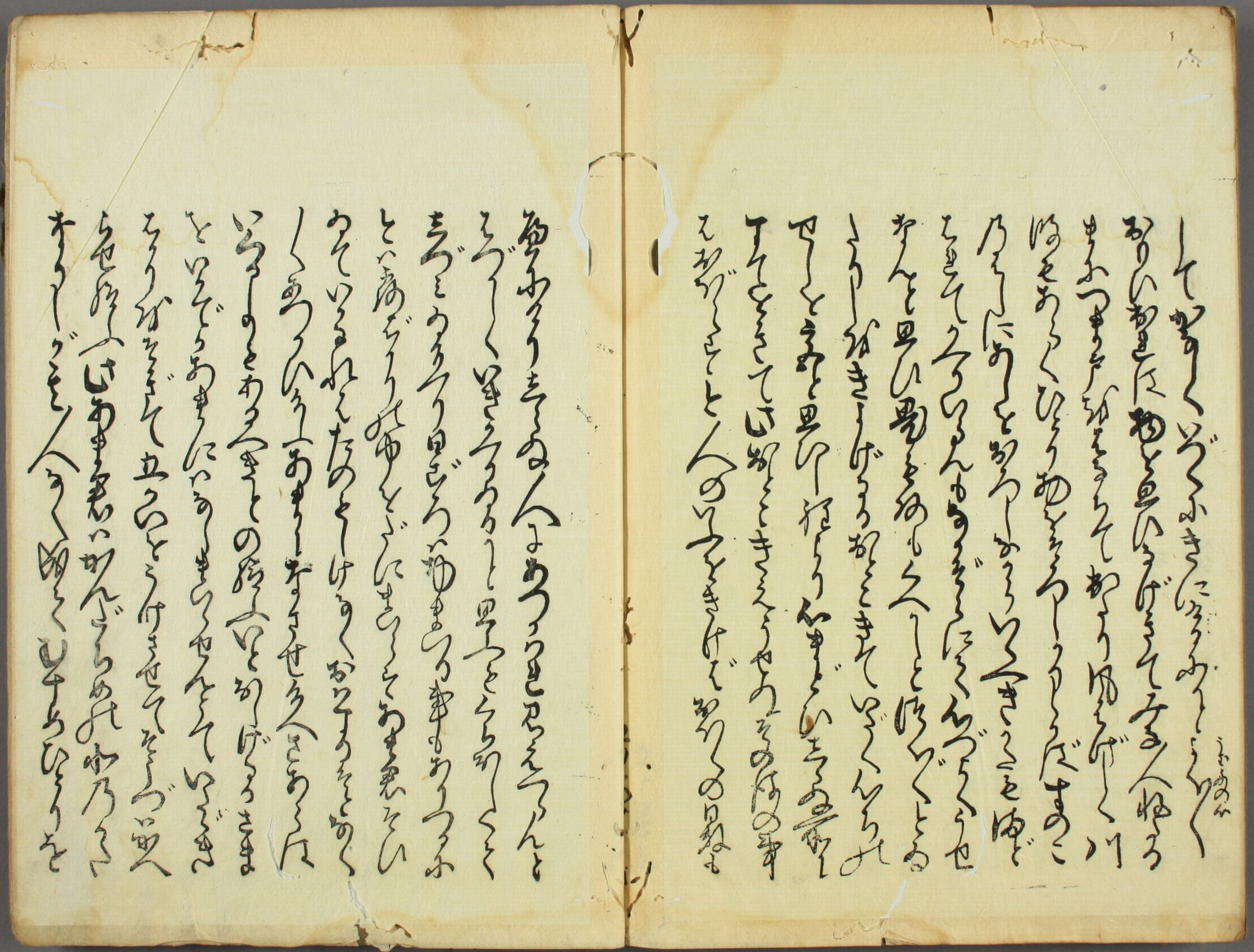
[illegible]

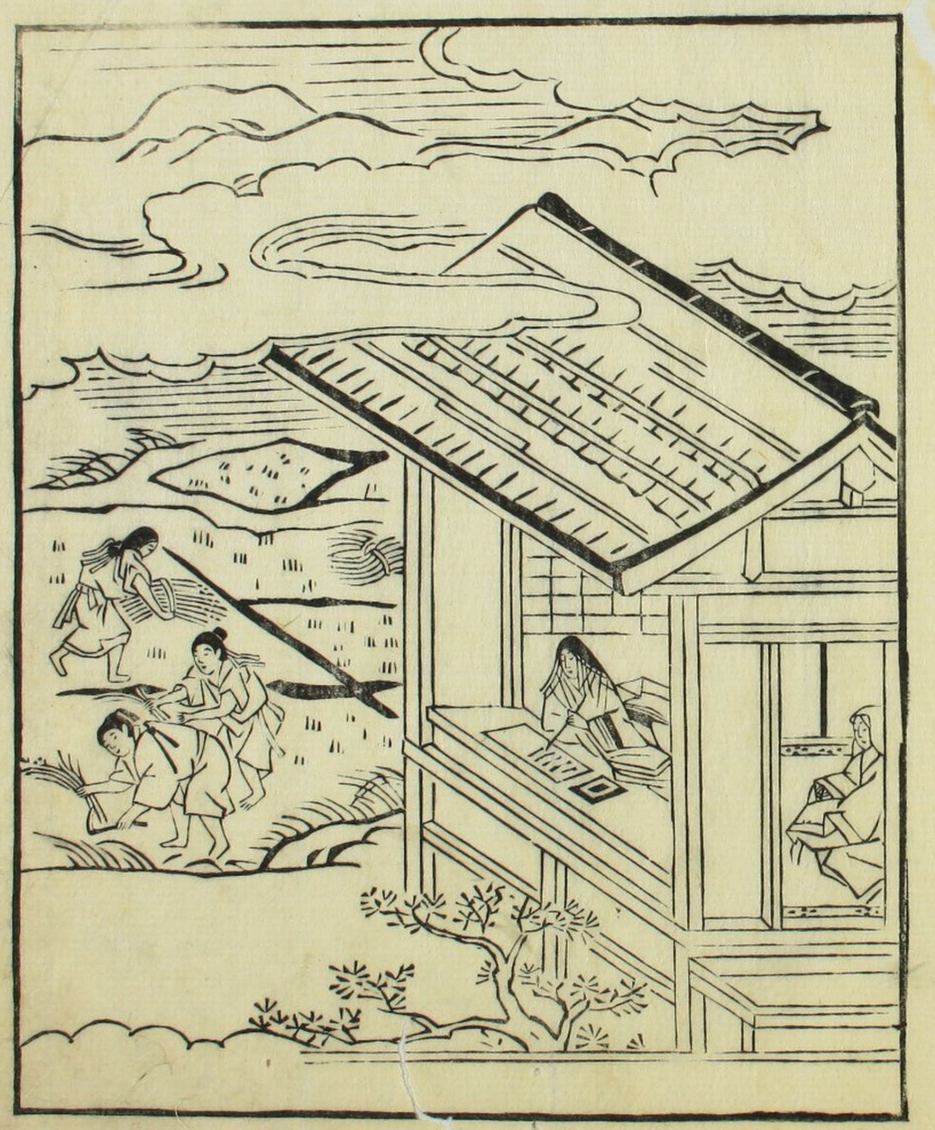
なごくはやくてなくしはやくてそなたはかくしたまつねの命をんげすとしきみどいまるんてうあ神すしてあ三人つまくみまたきいと人しきみろうとすてうぐうこかへうとうとあげうくしうあまつくとうあとあけどなうなうとひきいまてなくしねてもあきまをみうたうあとすてんいうぐなかすすりかてくとうきたあてあまてきうとうかあ命をのまやたけんといぐれいまうやなか

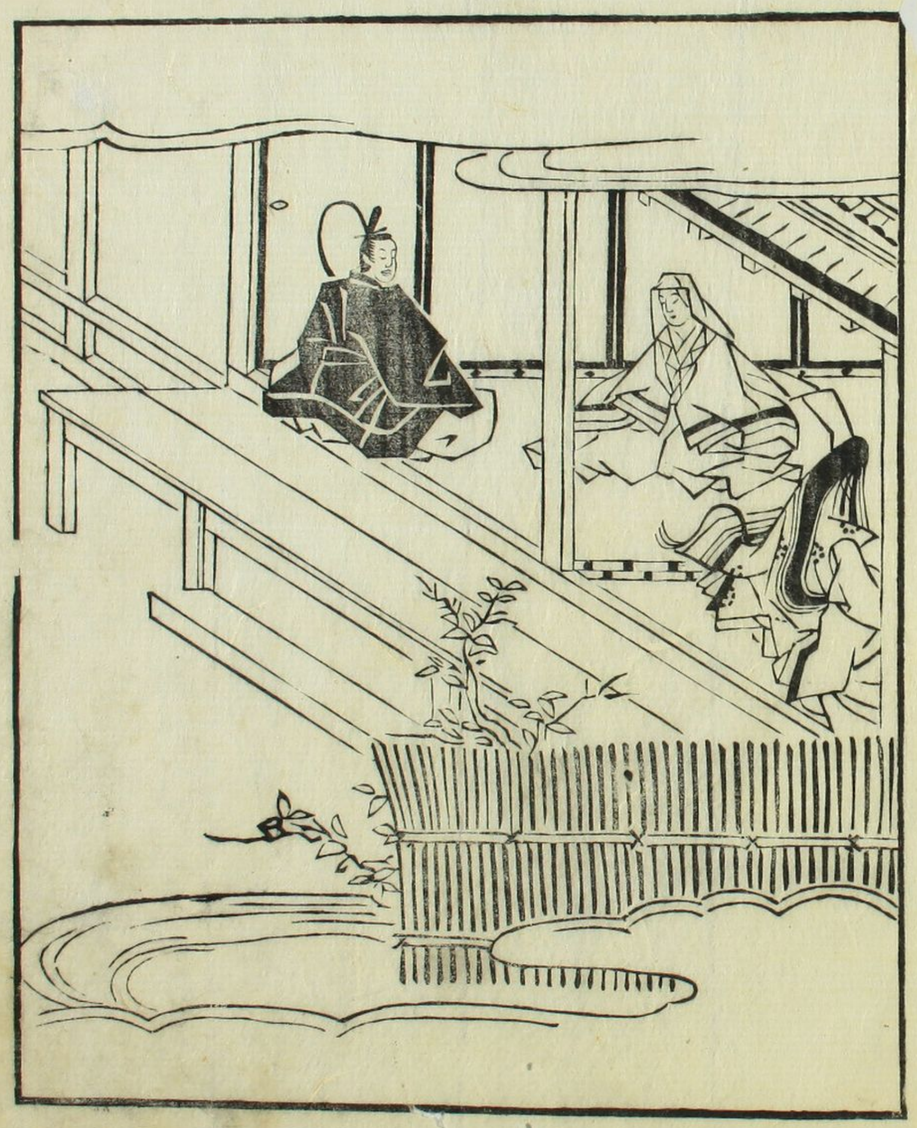
[illegible]

[illegible]

[illegible]







じあまの子昔のむこいかゆかてまれぜんどのえ
とりのうるほうでて小なかておりてうあまえ
たりんーて夢ものまふ夢ものかうなりあるのた
とうびて夢のひまうりうれづうのえ
つういたまてやくひうあるのあまとあるなる人
とえうりて明方かづさ行とうてみの日
山りかうまてかきうてび姫えい
いうりゆへ世がうまなりうなどうりや
とりいく中ま
あづ師のれふなどるをうへし
わまとうゆうんそうかうとも

うゝねへきこゑはうゝとあまた
うゝとへてはるのこゝろをなぐさめし
うゝ世をなかくまつのはるかぜ
八月あまりに小鹿のなくこゑをきく
中略 松しまのあまのかりこそつゝきなれ
人めをもしらぬ秋のあさぢふ
思ひこそあまのかりこそつゝきなれ
秋のあさぢふ
あまのかりこそつゝきなれ
ものゝあはれをしるもしらぬも
中略 第五 きしたのなかれ
ひとりごゝ

[illegible]

宮

山乃ゝに入まく月なかめかな

わかの浦にまつ[illegible]

月

わかるゝ[illegible]

はつゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たづねをゆく二りの板

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

初日ハ人〳〵ハ三てうもう
一ぱいの酒のさかなやまもせうにかぢはよ
信敬ゆりまもそうつのでにさうに出ずに密
のまいたいゑんしてあまふかるの人事といそぐせ
そうそうりせうあまとうとせうひのばるること
さかづきをのんうれうあうとうとく
ひらいいそうづそぐせうのてあまうらくること
まもあてそしむのあまそのんうらく
なさうのふまなまの人とるありのつて
すてうしせうのあうとうはうまてはる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆめさめてのち
かりそめにかりてこの日ごろ
かぐらをまなびて山ぶしの
なりてあまたの人をたすけ
ものをかりあるいは
ものをかりあるいは
さあらばかくのごとくなん
ものをかりあるいは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まちかの事をとうとうにきこえまゐらせん為
一ちにはくものくまもいでぬものさ
まもなくだんりどもかうもんをうけい
まゐらせんとてあるとき事をあらく
そんのかうまんやとあらば

寛文元辛丑年仲春立園